



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



世界バレーでの歓喜の瞬間(井上選手右端)
(JVA承認2010-12-008)



総合体育館に「井上選手応援コーナー」を設置



ブロック、多彩な移動攻撃と大活躍の井上さん「日本の壁！」

バレーボール世界選手権で銅メダル

日本中を熱狂させた元気人

豊岡から世界へ羽ばたき、バレーボール全日本女子の中心選手として活躍、輝かしい成績を収めて日本に勇気と希望を与えた元気な女性を紹介します。

井上香織さん(28歳)出石町鍛冶屋出身

世界バレー 日本32年ぶりのメダル獲得

本市出身の井上香織さんが、バレーボールの全日本女子代表選手として、世界選手権で日本の32年ぶりのメダルとなりました。北京オリンピックで銀メダルのアメリカをフルセットの末、逆転で破つての堂々の表彰台。日本中が歓喜に包まれました。

井上さんは、ミドルブロッカーとして全試合に出場し、速攻やブロードを中心とした速いセンター攻撃と攻撃的なブロックで活躍しました。

V・プレミアリーグで活躍中の井上さんに、忙しい合間を縫って質問に答えていただきました

Q 32年ぶりのメダル獲得、おめでとうございます。自信はありましたか。

A まったくなかったです。でも、試合に入ってから自信を持って戦っています。

Q ブロックポイントでは世界トップだったそうですね。

A ポイントではトップでしたが、「ブロック賞」は取れませんでした。セット率な

どが関係しますの
で。

Q ブロックのコツは？

A タイミングを合わせることでですね。それと、セッター

の癖や試合の流れ、

点数の差を考えて予測します。あとは、相手チームの

データを見て考えます。

Q 世界ランキングが5位から3位に上がりました。次

はオリンピックでのメダル獲得ですね。地元では「豊岡からオリンピック選手

を」と盛り上がってますよ。

A とてもうれしいです。

Q 全日本メンバーとしての

これからの抱負は？

A オリンピックに出たいので、まずはその切符を手に入れることです。そのため

には、来年開催されるワールドカップで3位以内に入る

こと。もし、それを逃したら最終予選で勝つことが

条件になります。



井上香織さんのプロフィール
福住小学校、出石中学校を卒業後、強豪氷上高校へ進学。卒業後はデンソーエアリービーズに所属。ミドルブロッカー。現在主将。ブロック賞、ベスト6賞、黒鷲賞(最高殊勲選手)を受賞

A 昨年からキャプテンを務めていますが、これは私にはかなりの重圧です。今は、V・プレミアリーグで勝つことに全力をあげています。

Q ご結婚されていますが、バレーと家庭との両立は大変ではないですか？

A そうでもないですよ。それより、いろいろ相談に乗ってもらい、支えられていることの方が多いです。

Q 最後に、井上さんにあこがれてバレー選手を目指す豊岡の子どもたちへ一言！

A 私は、何度かバレーを辞めたいと思ったことがありますが、バレーが好きだから続けられました。皆さんもバレーを楽しんでほしい

です。やらされるのではなく、自分で好きになって続けてほしいです。そして世

界を目指してください。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

12

府中幼稚園

(日高)

〈園児29人〉



世界を代表する冒険家 植村直己さんのふるさと、日高町国府地区にある府中幼稚園では、園児たちが冒険心を育みながら、理想の「まちづくり」を進めています。

12月2日、こくふ保育園の園児を招き、「幼稚園のまち」のお披露目が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

準備は大丈夫?

段ボールなどの廃材を活用し、長い月日を費やしてつくってきた「幼稚園のまち」には、カフェ屋さんやアイスクリーム屋さんなどのお店のほか、警察や病院、公園などもあります。



「敬礼の練習だ」など、園児たちは最初は最終チェックに余念がありません。



上手に発表できるかな?

「公園のすぐそばにありません」「1000円ですよ。安いですよ」。



園舎に響きました。これが、私たちのまち! 「財布を落としたり」との届けを受けてパトカーが出動したり、売れない(?)アイスクリームを何とかしようと移動販売を始めた。:「今、休憩中です」と言っで、他の園児のお店を利用する子もいました。まるで、本物のまちのようです。

みんな、ありがとう!!

「お好み焼き屋に来てくれてうれしかった」「病院がいつも満員で休憩が取れなかったけど、うれしかった」。



顔輪笑の

優雅に舞います
踊り同好会(竹野)

踊り同好会は、基本的に毎週月曜日午後8時~10時に、竹野南地区公民館で活動しています。

練習会では、新舞踊や演歌・民謡などに合わせた歌謡舞踊にチャレンジし、踊りの種類によって、衣装を変えたり、扇子や菅笠などの小道具を使い分けて、優雅に踊ります。



▲ポーズを決める同好会の皆さん

会員の皆さんは、練習の合間の休憩時間には近況を報告し合ったり、楽しく交流しています。新しい踊りを覚える時には、顔つきも変わります。また、着物の着付けも手馴れたもので、とても体に馴染んでいました。

代表の達富善隆さん(竹野町門谷)は、「この同好会は、年の近い会員が集まり、健康のため、認知症防止のために活動している。練習してきた踊りを自分のものにして踊れるようになったときは、とてもうれしい。体が健康なうちは活動を続けたい」と話します。

毎年、竹野地域の敬老会と文化祭には欠かさず参加し、日頃の練習の成果を披露しています。

今年4月には、竹野南地区公民館に完成した県民交流広場の竣工式で踊りを披露しました。

入会希望・問合せは、達富さんまで。☎48-0548